

第18回亜鉛めっき年間大会講演会のご案内

本年 2021 年は亜鉛めっき年間になります。当協会においては「**変わる世界へ 変わらぬ安心を技術で届けよう 亜鉛めっき**」をスローガンに掲げ、亜鉛めっきの有効性を積極的にアピールしております。その一環としまして下記期日に第 18 回 亜鉛めっき年間大会講演会の開催を予定しております。業務ご多忙の折りとは察し致しますが、万障お繰り合わせの上ご参加下さいますよう心よりお願い申し上げます。

尚、新型コロナウイルス感染状況を考慮しまして、Zoom ウェビナーを用いたオンライン開催といたします。

開催期日：2021年11月18日（木）13：00～17：00

開催方法：Zoom ウェビナーを用いるオンライン開催

参加費：無料（事前登録が必要です）

申込方法：下記 URL にアクセスし、参加申し込みサイトに必要事項をご入力ください。
お申込みいただいた方には、メールにて参加方法等をご連絡いたします。

ウェビナー事前登録用 URL：

https://tkp-jp.zoom.us/webinar/register/WN_fsEfNkRTImB_sBZohd-9g

主催：日本鋳業協会 鉛亜鉛需要開発センター

協賛：一般社団法人日本溶融亜鉛鍍金協会、一般社団法人日本鉄鋼連盟

お問合せ：日本鋳業協会 鉛亜鉛需要開発センター 事務局

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-17-11

(TEL 03-5280-7151、E-mail：lzinfo@kogyo-kyokai.gr.jp)

担当 志村 までお問い合わせください。

もしくは、当センターホームページ (<https://jlzda.gr.jp/>) のお問い合わせフォームからも可能です。

講演会次第

1. 開会の辞 13:00~13:05 日本鋳業協会 鉛亜鉛需要開発センター長 山中和彦
2. 主催者代表挨拶 13:05~13:10 日本鋳業協会 会長 村山誠一
3. 来賓ご挨拶 13:10~13:15 経済産業省 製造産業局 金属課長 松野大輔

4. 講演

講演1 13:15~13:50

亜鉛地金の需給及び市況動向について

三井金属鋳業株式会社 金属事業本部 亜鉛・鉛事業部 亜鉛ユニット
営業担当 部長補佐 小林 保憲

亜鉛の需給および市況について、鋳石や地金生産、地金消費の推移を基に、コロナ影響を始めとした最近の国内外のトピックスを踏まえながら、その動向を述べる。

講演2 13:50~14:25

亜鉛系めっき鋼板・塗装鋼板のクロメートフリー化活動と社会情勢

一般社団法人 日本鉄鋼連盟 薄板建材技術・普及委員会 基礎技術分科会 主査
JFE 鋼板株式会社 製造所統括役員付 主任部員（理事） 白神 健志

環境負荷物質低減のため、各社の六価クロムを含まない亜鉛めっき系鋼板、塗装鋼板の耐食性試験を行った結果、クロメート材と同等以上の性能を有することを確認した。

講演3 14:25~15:00

溶融亜鉛めっきを施される鋼構造建築物の柱梁接合部の設計

神戸大学大学院 工学研究科 建築学専攻 教授 田中 剛

溶融亜鉛めっきを施される鉄骨造建物の柱に角形鋼管を用いる場合、ダイアフラムにはめっき抜き孔を設ける必要がある。めっき抜き孔が構造性能に与える影響を検討し、接合部の設計法を提案する。

【休憩】 15:00~15:10

講演4 15:10~15:45

溶融亜鉛めっき鉄筋を用いたコンクリート構造物の塩害に対する耐久性の評価

鹿児島大学 学術研究院理工学域工学系 准教授 審良 善和

溶融亜鉛めっき鉄筋を用いるコンクリート構造物の設計施工指針が2019年に改訂され性能照査型設計に移行した。講演では、継続実施している暴露試験の結果を報告するとともに、耐久性照査方法について概説する。

講演5 15:45~16:20

北陸自動車道における溶融亜鉛アルミニウム合金めっき検査路の暴露試験

田中亜鉛鍍金株式会社 顧問 前山 雅博

NEXCO 東日本と日本溶融亜鉛鍍金協会は、北陸自動車道の激しい塩害地域にかかる橋梁の検査路に溶融亜鉛アルミニウム合金めっきを施工して20年間の暴露試験を行い、良好な耐食性能を発揮している結果を得た。

5. 閉会の辞 16:20~16:25

日本鋳業協会 専務理事 矢島敬雅

以上